

進む高齢化、 進まない交代 2024年は初の300件超え

経営者の高齢化を背景に増加

「経営者の病気、死亡」倒産動向調査

SUMMARY

「経営者の病気、死亡」を主因とする倒産が増えている。2024年は前年比38件(13.7%)増の316件となり、はじめて300件を超えた。全倒産に占める割合も年々高まり、かつては1%台にとどまっていたが、2013年に2%台となり、ここ2年は3%台に上昇している。

その理由の一つは社長の高齢化だ。



本件照会先

牧 秀樹
帝国データバンク
東京支社情報統括部
03-5919-9341(直通)
情報統括部: tdb_jyoho@mail.tdb.co.jp

発表日

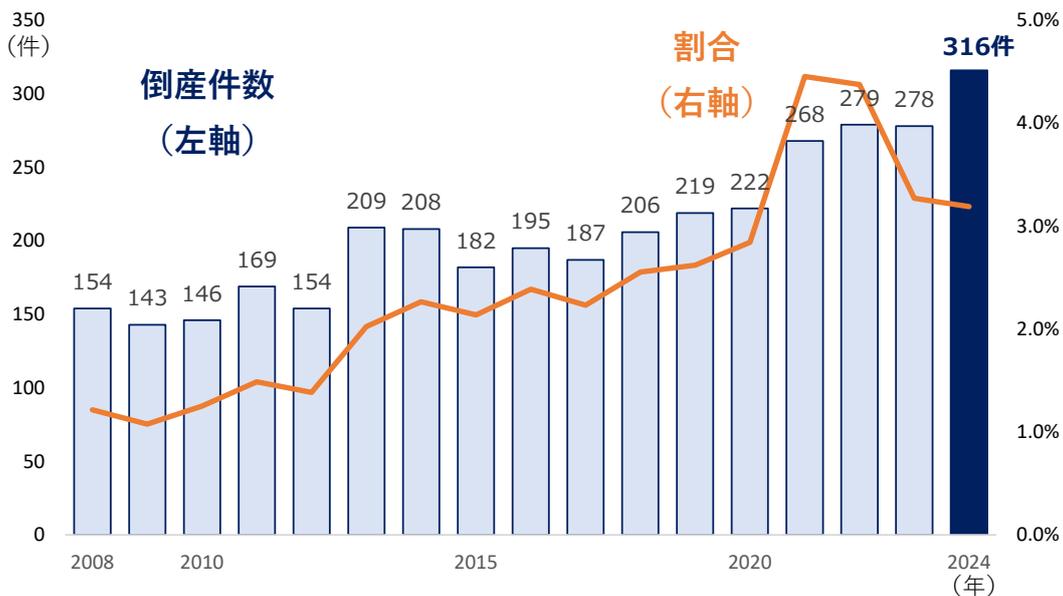
2025/02/10

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

「経営者の病気、死亡」の倒産、2024 年は 316 件

2024 年は前年比 38 件(13.7%)増の 316 件となり、はじめて 300 件を超えた。手厚い資金繰り支援によりコロナ禍での倒産件数は歴史的低水準となったが、2021 年(268 件)、2022 年(279 件)と増加傾向は続いていた。また、全倒産に占める割合も年々高まり、かつては 1%台にとどまっていたが、2013 年に 2%台となり、ここ 2 年は 3%台に上昇している。

(図) 「経営者の病気、死亡」の倒産件数・全倒産に占める割合 推移



社長の高齢化が進行、事業承継の先延ばしがリスクに

理由の一つは社長の高齢化だ。『全国「社長年齢」分析調査(2023 年)』によると、2023 年の社長の平均年齢は 60.5 歳と 33 年連続で上昇した。また、50 歳以上の社長の割合は、2017 年の 77.2%から 2023 年には 81.0%にまで上昇し、企業の経営者の高齢化が加速的に進んでいる。その大きな要因の一つが、社長が交代した割合を示す『社長交代率』が 3.8%の低水準で推移していることである。

社長の『後継者不在率』は、事業承継に関する官民の働きかけが効果をあげたこともあり、近年は改善傾向にあるものの、年齢的に後継者が決まっていることが望まれる 70 代で 28.5%、80 代以上で 23.2%が後継者不在となっている。加えて、事業承継の計画中止・取りやめる割合は、社長年齢が 70 代・80 代以上と高齢になるにつれて上昇している。事業承継ガイドライン(中小企業庁)には、後継者への移行期間を踏まえると「概ね 60 歳頃には事業承継に向けた準備に着手することが望ましい」とある。準備の先延ばしにより「経営者の病気、死亡」による倒産リスクは高まり、倒産件数は今後も増加傾向で推移する見込み。